

郷土奈良を愛する心を育てる日本史学習 —地図や史料を関連付けて考察させる—

長期研修員 榊原 賢治
Sakakibara Kenji

要 旨

奈良県は、世界遺産をはじめ多くの文化財を有し、日本史を学習するには大変恵まれた環境にある。しかし、博物館などの施設や地域の文化財にふれたことがない生徒も多い。主題学習や臨地学習で資料にふれ、学んだことを多面的・多角的に考察させることにより歴史的思考力を培い、我が国と郷土の伝統や文化に誇りをもつ生徒を育成することができる。その指導方法及び内容について研究した。

キーワード： 日本史学習、歴史的思考力、デジタル教材、電子地図「平城京条坊図」

1 はじめに

現行高等学校学習指導要領における生徒の学力と学習状況について、国立教育政策研究所が調査分析した「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査」（平成19年4月）の教科・科目別分析と改善点を見ると、地理歴史の日本史Bについて、以下の課題が挙げられている。

【ペーパーテスト調査】〈歴史の考察〉

この大項目では、複数の資料を関連づけて考察する力や地理的な知識や技能を用いて考察する力に課題がみられる。

【質問紙調査】

教師質問紙調査では、「博物館や郷土資料館等の地域にある施設を活用した授業を行っていますか」や「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っていますか」などの質問に肯定的な回答をした教師の割合は10%にも満たなかった。

大項目「歴史の考察」の中項目「地域社会の歴史と文化」については、「生徒は興味を持ちやすい」と回答した教師の割合は70%以上であるが、「好きだった」と回答した生徒の割合は約20%であった。

上記の課題については、授業実践でも認識しているところであり、しかもペーパーテスト調査の結果については、大学入試センター試験の結果にも表れている。

文部科学省（平成21年3月）『高等学校学習指導要領』では、日本史Bの目標を「我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。」と示されている。

これらの点を踏まえ、これからの日本史学習の指導方法・内容を考察したい。

2 研究目的

日本史学習において、諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国と郷土の伝統や文化の特色について認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培う指導方法・内容を研究する。

3 研究方法

- (1) 報告書及び文献等の収集と分析
- (2) 現地説明会や公開講座等での研修
- (3) 分析や研修に基づく教材の開発
- (4) 指導方法・内容の検討とまとめ（所内研修会及び報告会）

4 研究内容

(1) 報告書及び文献等の収集と分析

高等学校における日本史学習の現状と課題について、これまでの授業実践と下記の報告書を踏まえて分析し、指導方法及びその内容を検討することとした。

- ・平成17年度高等学校教育課程実施状況調査（国立教育政策研究所、平成19年4月14日）
- ・大学入試センター試験問題評価委員会報告書（大学入試センター、平成18年度～20年度）
- ・奈良県公立高等学校入学者学力検査結果報告書（奈良県教育委員会、平成17年度～20年度）
- ・特定の課題に関する調査（社会）（国立教育政策研究所、平成20年6月28日）

分析と検討の結果、次のⅠ・Ⅱの学習を進めるために教材の開発が必要であると考えた。

- Ⅰ 学んだことを多面的・多角的に考察させることを通して歴史的思考力を培う主題学習
- Ⅱ 資料にふれ伝統や文化について認識を深めさせることにより、我が国と郷土を愛する心をはぐくむ臨地学習

(2) 現地説明会や公開講座等での研修

教育研究所内の講座をはじめ、土日に行われる現地説明会や公開講座には積極的に参加し、研究に役立てた。（日時・内容等は各教材の項に記載。）

(3) 分析や研修に基づいた教材の開発Ⅰ（主題学習用教材）

「平城遷都1300年—よみがえる大極殿—」

資料1

平城遷都1300年を迎える2010年に向け、平城宮跡では朱雀門に続き、第一次大極殿の復原工事が進んでいる。平城京の学習に際し、電子地図やプレゼンテーションソフトを活用して、地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察させる主題学習用教材を開発した。

ア 報告書及び文献等の収集と分析

平城京条坊の概略図を用いた問題は、平成17年度奈良県公立高等学校入学者学力検査や平成11年度・平成20年度の大学入試センター試験問題等で出題されており、理解力や資料読解力、思考力が求められている。教材の開発に際して、発掘調査報告書及び文献等の収集と分析を行う中で、様々な疑問点や分からない事項が出てきたが、奈良文化財研究所や奈良県立橿原考古学研究所の研究者の方々にご指導いただいた。

イ 現地説明会や公開講座等での研修

- ・6月7日（土）第431次 平城宮第一次大極殿院南面築地回廊調査の現地説明会

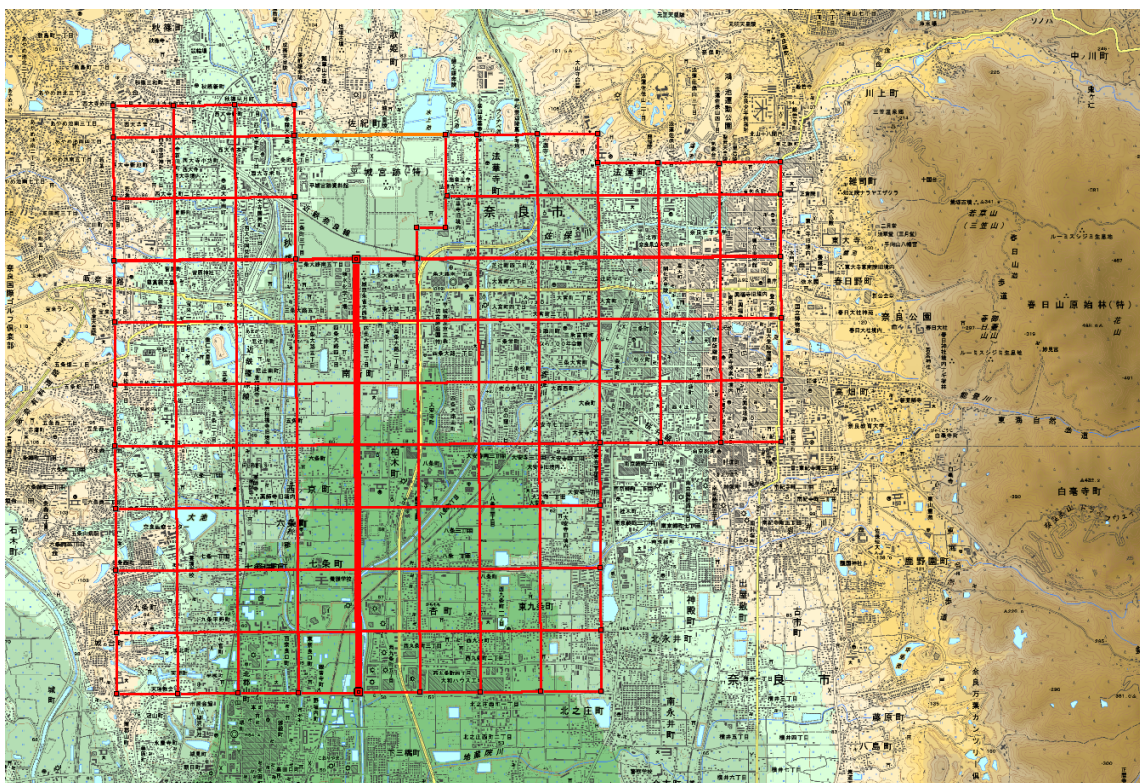
- ・ 7月24日（木）県立教育研究所講座：社会科『世界遺産を教材に』（県立教育研究所）
- ・ 8月5日（火）県立教育研究所講座：社会科『世界遺産を教材に』（平城宮跡資料館）
講師：奈良文化財研究所 千田剛道氏
- ・ 8月8日（金）県立教育研究所講座：社会科『地域教材を生かした社会科の授業研修会』
講師：奈良県立橿原考古学研究所 千賀久氏，大西貴夫氏，津浦和久氏
- ・ 9月20日（土）平城宮跡歴史文化講座「平城京から長岡・平安京へ」
奈良女子大学教授 館野和己氏
- ・ 9月23日（火）平城宮第一次大極殿正殿復原整備 特別公開（第7回）・講演会
「古代における建築の荘厳」奈良文化財研究所 窪寺茂氏
「平城宮跡を守った人々」帝塚山短期大学名誉教授 青山茂氏

ウ 電子地図「平城京条坊図」、「平城京・藤原京と下ツ道」等の作成

電子地図の利点は、紙地図と異なり広範囲の地図を連続して見ることが出来ることである。

例えば、平城京と藤原京を結ぶ下ツ道の学習を行う場合、紙地図（2万5千分の1）の場合は「奈良」、「大和郡山」、「桜井」、「畝傍山」の4枚をつなげなければならないが、電子地図であれば平城京から春日断層と下ツ道をたどりながら藤原京まで連続して見ることが出来る。また、縮尺を変えることができるため、地図「平城京・藤原京と下ツ道」のように10万分の1に縮尺して奈良盆地全体の様子を見ることも出来る。さらに、地図画像（地名、道路や条坊等）・等高段彩を瞬時に消したり、再現したりすることにより、地形や土地の高低、土地利用の様子を多面的に観察させることができる。

なお、コンピュータを利用できない環境では、A3用紙に印刷して使用できる。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)及び数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号 平20業使、第402号)」

図1 平城京条坊図

電子地図「平城京条坊図」、「平城京・藤原京と下ツ道」、「遺存地割による平城京復原図」は、電子GISソフト（カシミール3D：フリーソフト）に国土地理院発行の数値地図（地図画像と標高）を取り込み、次のような過程で作成した。

- ・奈良県立橿原考古学研究所の研究者に平城京条坊交差点推定位置を教示いただく。
- ・奈良文化財研究所で条坊道路の規模（道幅の計画寸法）等の記載文献を教示いただく。
- ・藤原京条坊図は、「藤原京形制復原図」（『日本古代都城制の研究』井上和人著 吉川弘文館）、『藤原京研究資料』（奈良国立文化財研究所）等を基に作成した。
- ・国土地理院に問い合わせると、『研究集録』等の刊行物に掲載する場合は、測量成果の複製承認申請が必要で、国土地理院発行の数値地図を使用しなければならないことが判明した。国土地理院発行の数値地図25000（地図画像）を購入し、測量成果の複製承認申請を行い、国土地理院の承認を受けて「平城京条坊図」等を作成した。

「平城京条坊図」作成の場合、数値地図25000（地図画像）は「京都及大阪」と「和歌山」の2枚が必要となる。

- ・国土地理院発行の数値地図50mメッシュ（標高）を購入して、測量成果の使用承認申請を行い、国土地理院の承認を受け、「平城京条坊図」等の等高段彩図を作成した。

エ 「Excel平城京条坊図」の作成

平城京における長屋王邸、寺院、東西の市の条坊位置等を学習させるため、「Excel平城京条坊図」を作成した。この図は、「平城京図」（『古代都市平城京の世界』舘野和己著 山川出版）を基にExcelで作成した。

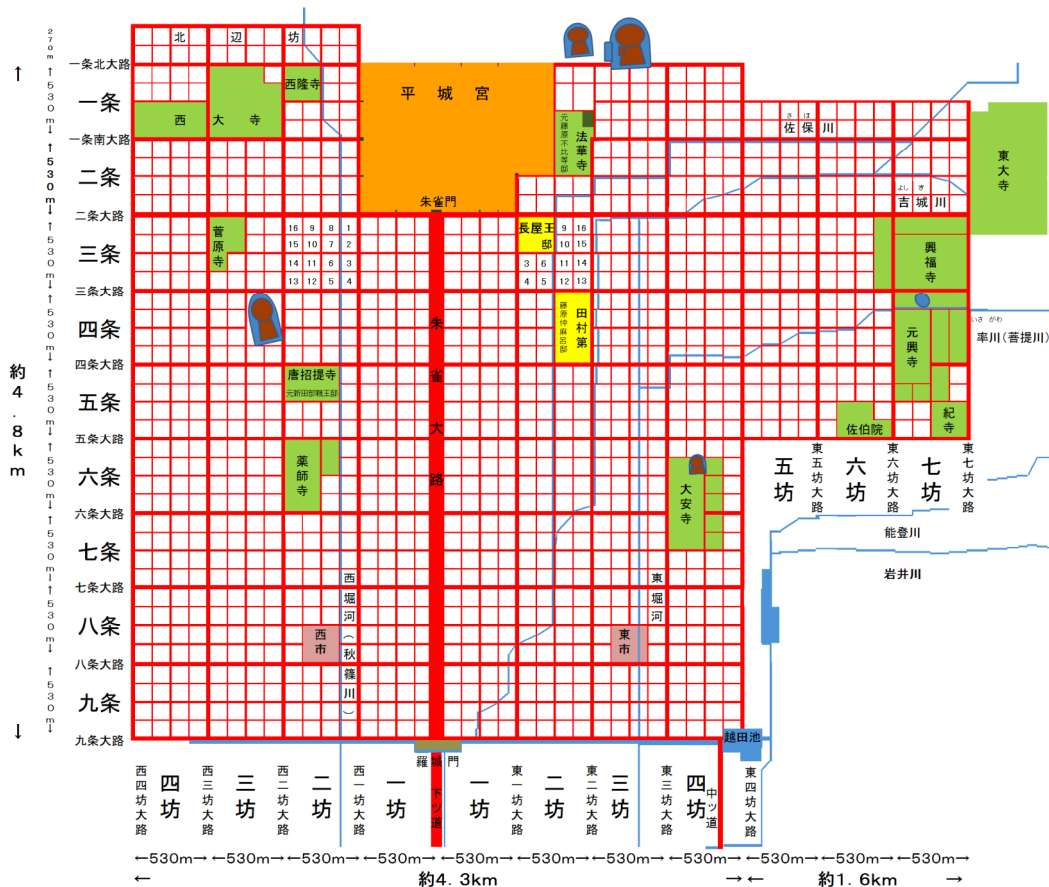


図2 「Excel平城京条坊図」

児童生徒が平城京を身近に感じて学習することができるように平城京条坊跡の周辺に所在する小・中・高・特別支援学校の位置を示した「Excel平城京条坊図（学校編）」も作成した。当時の平城京条坊道路に面して建っている学校もある。児童生徒には、悠久の歴史が今に生きていることを認識させるとともに、奈良の地で学ぶ誇りをもたせたい。

(4) 指導方法・内容

ア 指導案「平城遷都1300年ーよみがえる大極殿ー」

この指導案は、2時間連続の授業を想定して作成した。平城京の人々の暮らし等について、課題として生徒に調べさせ、次の授業で展開する方法も考えられる。

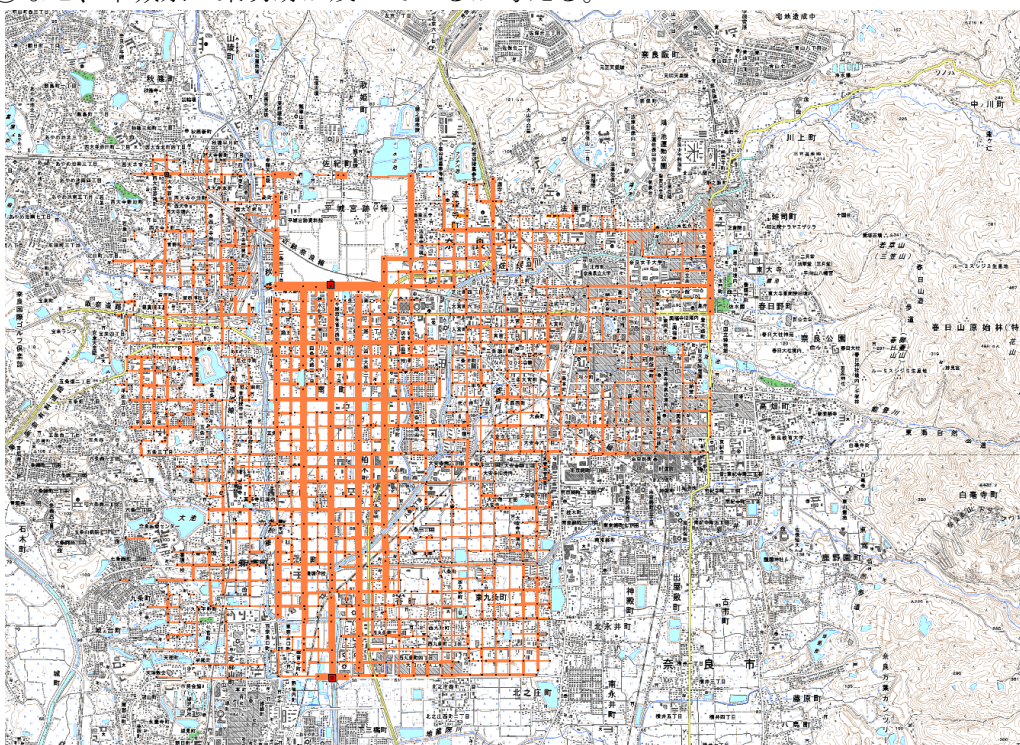
展開	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入	平城京の広さはどのくらい？ (地理的空間把握)	・JR及び近鉄の駅、世界遺産「古都奈良の文化財」等の位置を確認する。 「平城京条坊図」	・生徒に発問し、確認を行う。	本時の学習に対する意欲を、発問により確認する。【関心・意欲・態度】
展開	平城京条坊と今の私たちの生活とのかかわりについて	・読図して気付いた内容を話し合う。 「平城京条坊図」 ・なぜ、平城京の条坊跡が残っているか考える。 「遺存地割による平城京復原図」	・地名や学校名に条坊のなごりが残っている例を挙げる。 「Excel平城京条坊図（学校編）」	資料から多面的・多角的に考察できる。コンピュータを的確に操作できる。 【思考・判断】 【技能・表現】
	平城遷都の理由	・史料から、なぜこの地に平城京が造営されたかを考える。 ・年表から平城遷都の国外的要因と国内的要因を考える。 ・史料と地図から平城遷都の理由を考える。 「平城京・藤原京と下ツ道」	・史料と地図等複数の資料を関連付けて考察させ、自分の考えを記述させる。	史料と地図等複数の資料を関連付けて考察できる。 【知識・理解】 【思考・判断】
	平城京と人々の暮らし	・長屋王邸や寺院、東西の市等の条坊位置を確認する。 「Excel平城京条坊図」 ・長屋王家木簡等から当時の暮らしを考える。	・約10万人の都市平城京の暮らしを考察させる。	・基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けようとしている。 【知識・理解】
まとめ	世界遺産や文化財のもつ意味について	・文化庁の「平城宮第一次大極殿正殿復原整備 特別公開」資料を見て考察する。	・復原工事の目的の一つに伝統の継承があることを理解させる。	学習した内容について簡潔に表現できる。 【技能・表現】

イ 内容

(7) 平城京条坊と今の私たちの生活とのかかわりについて考察させる。

平城京の条坊概略図は教科書にも掲載されているが、地理的空間把握ができている生徒は少ない。電子地図「平城京条坊図」と「遺存地割による平城京復原図」で次の学習活動を行い、平城京の条坊と今の私たちの生活とのかかわりについて理解を深めさせたい。

- ① J R 及び近鉄の駅、世界遺産「古都奈良の文化財」〔1998年登録〕（平城宮跡、東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺）等の位置を地図で確認する。
- ② 読図して気付くことをグループで話し合う。
- ③ なぜ、平城京の条坊跡が残っているか考える。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平20業複、第650号）」

図3 遺存地割による平城京復原図

長岡京・平安京への遷都後に平城京の街路は水田化したため、他の都城と異なり、現在も道路や水田の畦の形となって痕跡をとどめている。「遺存地割による平城京復原図」で、現在の田畑や市街地の様子も観察させ、平城京の街路が今日の私たちの生活にもかかわり、影響を与えていることを実感させる。なお、地図表示のみならず衛星写真に切り替えて、平城宮跡資料館の展示パネルの様に表示することができる。

この電子地図「遺存地割による平城京復原図」は、「遺存地割・地名による平城京復原図」（『平城京 朱雀大路発掘調査報告』奈良市）を基にして作成した。

(イ) 史料からなぜこの地に平城京が造営されたかを考察させる。

平城遷都の理由として、『続日本紀』に「四禽^{しきんと}図に叶い、三山^{かな}鎮^なを作り、…」と表現されている平城京の「地勢のよさ」とは何かを考察させる。四禽と三山の用語を学習した後、地図を立体的に見るカシミール3Dの機能を使って平城宮から三山（東の春日山塊、北の平城

山丘陵、西の矢田丘陵、生駒山) を見る。



図4 平城宮から見た三山(東の春日山塊)

次に、平城宮が平城山丘陵の南裾に位置し、北が高く南が低い地理的条件をカシミール3Dの機能「断面図」を使って平城宮第一次大極殿と羅城門の標高差(20m)を測らせる。

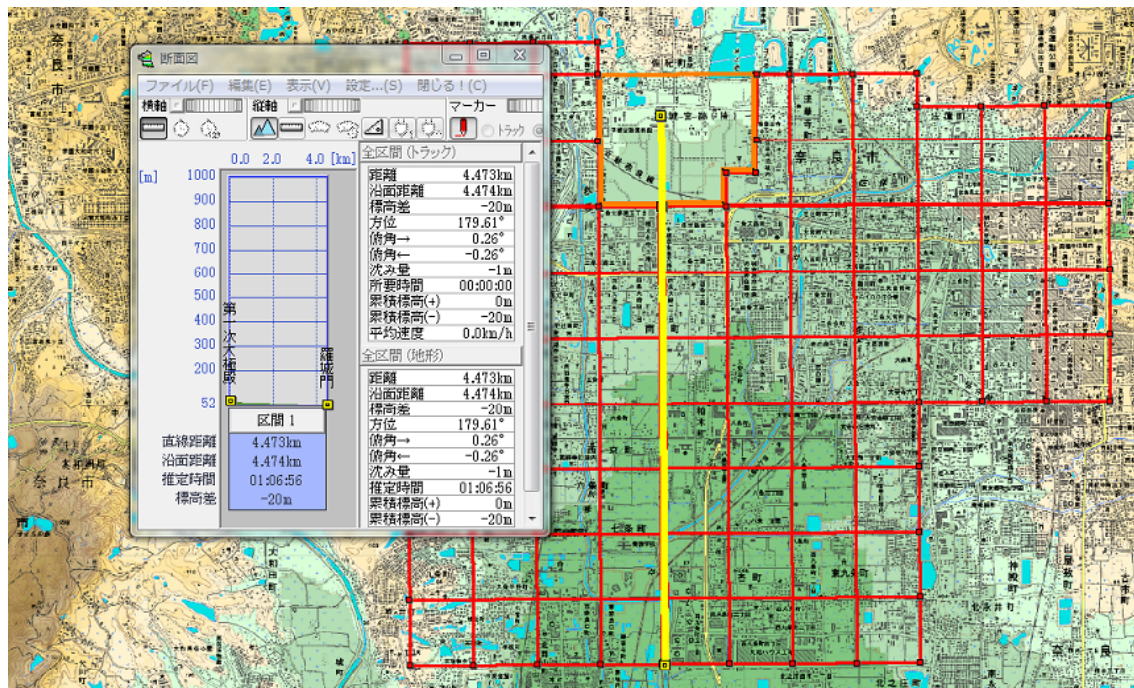


図5 平城宮第一次大極殿と羅城門の標高差

(ウ) 年表から平城遷都の国外的要因と国内的要因を考察させる。

律令体制が確立する7世紀末から8世紀初頭にかけての国際情勢と国内の基盤整備についての年表を見て、平城遷都の国外的要因と国内的要因を考えさせる。

国内の基盤整備	国際情勢
672年 壬申の乱	618年 隋滅び、唐興る
689年 『飛鳥浄御原宮令』施行	651年 唐：高宗『永徽律令』編纂
694年 藤原京へ遷都	660年 百濟滅ぶ
701年 『大宝律令』完成	668年 高句麗滅ぶ
702年 第8回遣唐使(粟田真人、山上憶良) 「日本」国号の対外的初使用	676年 新羅、半島統一

708年 平城遷都の詔 和同開珎を铸造	698年 渤海興る(～926)
710年 平城京に遷都	712年 唐の玄宗即位(開元の治)
717年 第9回遣唐使(阿倍仲麻呂、吉備真備、僧玄昉)	715年 唐：玄宗『開元律令』
718年 藤原不比等ら、養老律令を撰定	727年 渤海使、はじめて来日

(イ) 史料と地図から平城遷都の理由を考察させる。

地図「平城京・藤原京と下ツ道」から、どうして平城京と藤原京の都城の形態がちがうのかということを考えさせたり、史料と地図の複数の資料から平城遷都の理由を考えさせる。

また、平城京造営に際して、下ツ道が中軸線として利用されたことが、平城宮や朱雀門の発掘調査の結果から分かっていることを学ばせる。

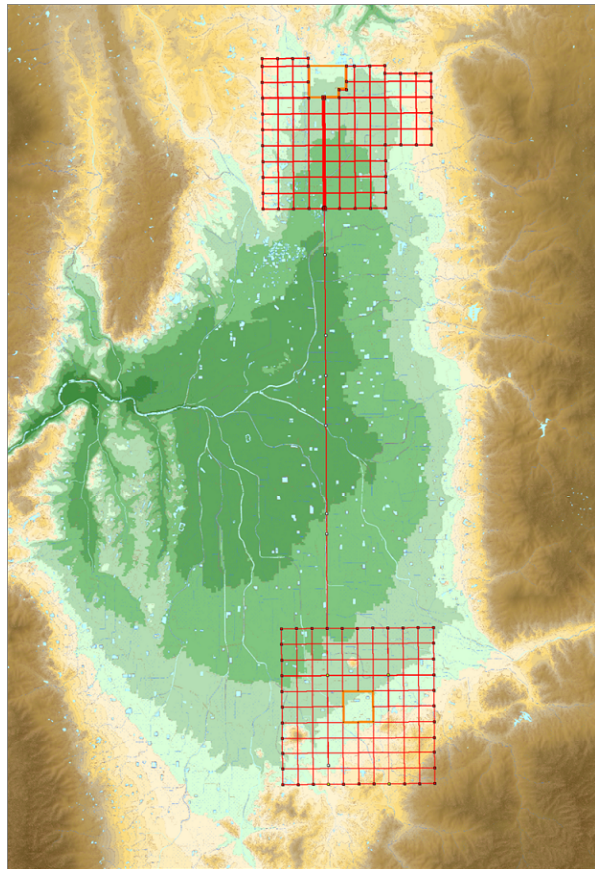


図6 平城京・藤原京と下ツ道

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)及び数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。
(承認番号 平20業使、第401号)」

(オ) 平城京と人々の暮らしについて考察させる。

- a 平城京の街区を長屋王邸、寺院、東西の市等の条坊位置から考察させる。**
- b 長屋王家木簡等から当時の暮らしを考察させる**

奈良文化財研究所の平城宮跡資料館で行われた「地下の正倉院展—長屋王家木簡の世界」資料等から当時の暮らしを考察させる。なお、平城京と人々の暮らしについて調べ学習をインターネットで行わせる場合は、下記のWebページを参照させたい。

- ・ 平城京の生活・建築・貨幣等の暮らしについては、奈良県の平城遷都1300年記念事業協会 [<http://www.1300.jp/>] の「初めての奈良」－「むかしむかし奈良図鑑」や「よくわかる平城京(キッズ平城京)」 [<http://www.pref.nara.jp/1300/kids/>]
- ・ 木簡については、奈良文化財研究所 [<http://www.nabunken.go.jp/>] の「木簡ひろば」

(5) 分析や研修に基づいた教材の開発Ⅱ（臨地学習用教材）

世界文化遺産「法隆寺」

資料 2

6～7世紀における我が国の国家形成と隋・唐など東アジア世界との交流に着目し、若草伽藍の発掘調査や近年の研究成果から法隆寺の歴史と飛鳥・白鳳文化のもつ国際性について学習し、文化財を大切にしていこうとする心を培うことをねらいとして、臨地学習にむけた事前学習用に電子地図やプレゼンテーションソフトを活用する教材を開発した。

ア 現地説明会や公開講座等での研修

先述の主題学習教材時の研修以外で主なものは、次のとおりである。

・奈良国立博物館『国宝法隆寺金堂展』公開講座

① 6月14日（土）「年輪から法隆寺西院伽藍と金堂天蓋の年代を読み解く」

総合地球環境学研究所 光谷拓実氏

② 6月21日（土）「法隆寺金堂壁画の世界」東大寺総合文化センター 梶谷亮治氏

③ 6月28日（土）「法隆寺金堂の金石文と聖徳太子」奈良大学教授 東野治之氏

④ 7月12日（土）「法隆寺四天王像の諸問題」奈良国立博物館 岩田茂樹氏

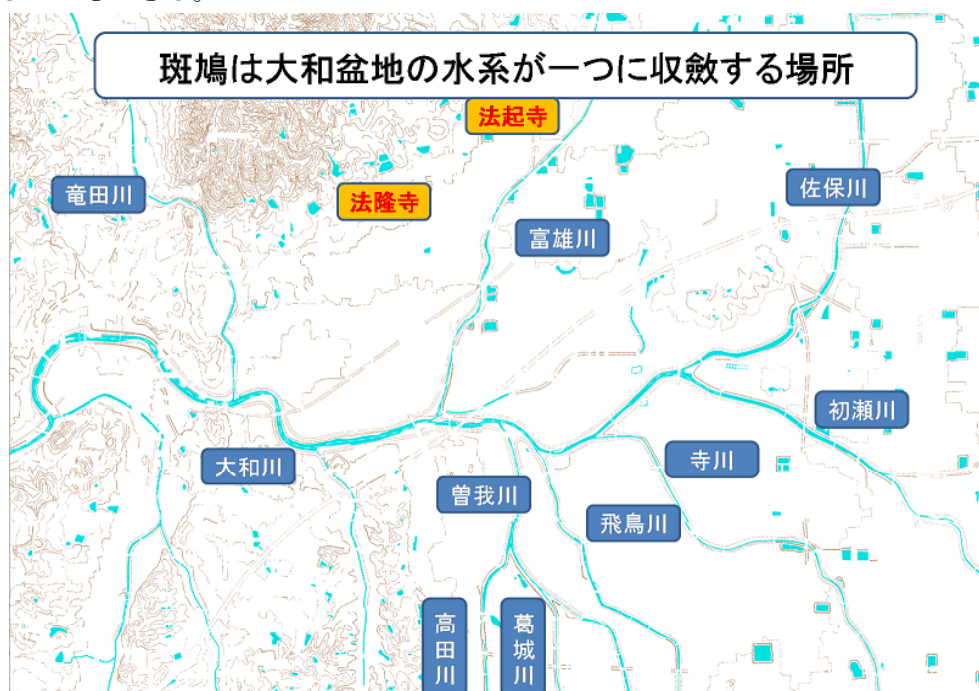
⑤ 7月19日（土）「建築史から見る法隆寺金堂」元奈良文化財研究所長 鈴木嘉吉氏

・7月26日（土）～29日（火）法隆寺夏季大学

・11月22日（土）法隆寺：『第24回太子道をたずねる集いー斑鳩から橘寺までー』

イ 電子地図「斑鳩と大和川の水系」等の作成

電子地図「斑鳩と大和川の水系」は、なぜ、聖徳太子が斑鳩の地に斑鳩宮と創建法隆寺を建てたのかを考察させるために作成した。さらに、電子地図の特性を生かして地図画像として太子道や法隆寺周辺の条里（奈良盆地の条里と方位の異なる先行条里）を描き込んで学習させることもできる。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平20業複、第404号)」

図7 「斑鳩と大和川の水系」

ウ 教材と著作権

世界遺産「法隆寺」の教材化に際して、法隆寺に写真等の使用申請を行ったところ、個人撮影の写真は使用不可であり、奈良国立博物館で行われた『国宝法隆寺金堂展』図録の写真も法隆寺の所有権のおよぶ範囲のもの許諾が得られなかった。写真（一部除く）をWeb上の研究集録に掲載できないことから教材の再考を迫られることとなった。

5 研究結果と考察

これからの日本史学習においては、基本的な知識とあわせて資料（地図・史料）活用能力や歴史的思考力・判断力を培うことが求められている。学んだことを生徒に整理させ、考察させる場の設定や資料（地図・史料）活用能力を高めるための作業的な学習を取り入れた授業がますます重要となると考える。その際、積極的にICTを活用することも必要である。

また、主題学習や臨地学習で資料にふれ、生徒が学んだことを多面的・多角的に考察することにより歴史的思考力を培うとともに、我が国と郷土の伝統や文化に誇りをもつ生徒を育成することができる。さらに、生徒が授業で学んだ内容に興味関心をもち、自ら臨地学習に行くような主体的な学習を促すことが生涯学習の観点からも必要であろう。

知識基盤社会において、いかに歴史的思考力を培い、歴史を学ぶことで未来への洞察力を養えるかを念頭におき、日本史学習の指導方法・内容を研究していきたい。

6 今後の課題

今回の研究では、デジタル教材として電子地図やプレゼンテーションソフトを活用する教材を開発したが、ほかの指導方法・内容についても研究したい。例えば、ジオラマと資料（地図・史料）を関連付けての主題学習用教材等も考えられる。例えば、平成18年度の大学入試センター試験の第2問に箸墓の墳丘長を条里制と関連付けて問う問題が出題されたが、授業で取り上げると身近な地域の事項でありながら正答率が低かった。ジオラマと資料等を関連させて古墳文化の特色を理解させ、古墳時代の人々の生活を考察させる教材を開発したい。

また、今回の研究で教材化に際して著作権について学んだ。著作権法第35条により、授業では写真や映像をすぐに教材として印刷したり放映できるが、刊行物を作成する場合は、すべて使用許諾を得なければならず、関係書類の作成等に労力を要した。しかし、このことで著作物の権利が守られていることも理解できた。学校における著作物の利用について、教員間でより一層共通理解を図るとともに生徒にも学習させていく必要があると考える。

参考文献・引用文献

- (1) 文部科学省（平成21年）『高等学校学習指導要領』p. 24.
- (2) 国立教育政策研究所（平成19年）「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査」p. 1, p3.
- (3) 大学入試センター（平成18年度～20年度）『大学入試センター試験問題評価委員会報告書』
- (4) 奈良文化財研究所（2006）『平城宮跡資料館図録』
- (5) 井上和人（2008）『日本古代都城制の研究』吉川弘文館
- (6) 舘野和己（2001）『古代都市平城京の世界』山川出版
- (7) 奈良県教育委員会（1998）『奈良県遺跡地図』
- (8) 奈良文化財研究所（2007）『法隆寺若草伽藍発掘調査報告』